



大杉っ子

教育目標:すすんでとりくむ子 おもいやりのある子 けんこうな子

令和5年12月25日
学校便り冬休み直前号
江戸川区立大杉小学校
校長 浅野 努



「自分を支える言葉」

副校長 青木 隆

みなさんは、自分が苦しいとき、つらいとき、またがんばろうとするときに支えとなるものはありますか。それが家族であったり、友人であったり、尊敬する人の言葉であったりと人それぞれだと思います。私はこれまで多くの方々に支えられてきました。ただ、いつも近くに支えてくれる人がいるとは限りません。そのため私は「言葉」を大切にしてきました。今回は「自分を支える言葉」について書かせていただきます。私自身は「自分を支える言葉」として以下の5つを常に自分に言い聞かせてきました。

「苦しい坂こそ登り切れ」「真剣な一人は万人に勝る」
「心こそ大切なれ」「努力は決して裏切らない」「天は必ず見ている」

この5つの言葉は、これまで関わってきた方や本を読んで感銘を受けたものです。どれも自分にとって欠かすことができない大切な言葉です。どうしてこの言葉なのか、一つエピソードを紹介します。今から17年前、初任者であった私は、誰よりも仕事ができず、いつもいちばん最後で、いわば「できない教師」でした。そのときに当時の先輩から「誰だって苦しいときはあるもの。助けてもらうのは簡単。でも自分の力にはならない。苦しい坂こそ登り切れ。登り切ったときに、見えるものがある、そしてそれが自分の財産になる。」と夜遅く、職員室で言われたことを今でも鮮明に覚えています。このとき以来、私はこの言葉を胸に今日まで頑張ることができました。「言葉のもつ力」は本当にすごく、人を支え、励まし、頑張り続けることができるものです。

保護者の皆様も「自分を支える言葉」があるかと思います。ぜひ、この冬休みにお子さんと「自分を支える言葉」について話し、それぞれが新しい年に向け、考えてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、4月から教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございました。すべてにおいて「4年ぶり」という中で、各行事がスムーズに実施できたことは保護者の皆様、町会の皆様、地域の皆様のお力添えがあったからこそです。本当にありがとうございました。どうぞ、すてきな年末年始をお過ごしください。

